

# 広報かわにし

発行所	川西町	町役場
発行者	川西町	吉作社
編集人	金子南	幸風
印刷所	白部	5部
人口	1,464	5,499
男女計	722	2,599
世帯数	7.4	1,616
	2.75	9世帯

## 新年賀謹



### 教育と産業に重点を

#### 上野小屋体が新予算のカギ

町長 中村 壯吉

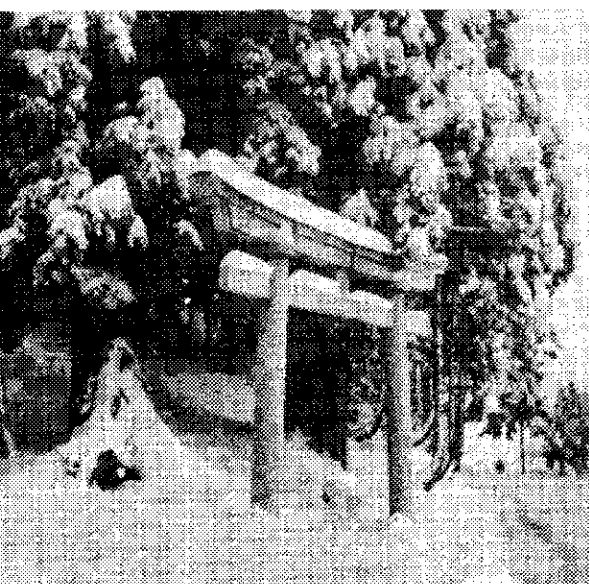


明けましておめでとつございます。一年の計は元日にあり。と今年頭に於いて抱負のあらましを申しあげ、みなさまのご支援を仰ぎたいゆえんいたします。

新年度の町計画を要約いたします。すなわち、教育文化の充実と産業の育成という二つになります。

橋小学校の改築計画ができておぼつたっております。定時制高校の専用教室と、これが整備拡充にも頭をなやましております。さらに欲をいへば、社会教育の拠点である公民館も欲しいと計画にとりかんでおります。しかし、これらの実行を決定するものは上野小学校屋体の建築でございます。おそろくこれが、三十五年の予算を決定することにもなります。

総額二億円に近い栄橋の継続工事も、なかなかたいへんな仕事で



伊白山神社にて撮影 友義 高橋

### 元朝の新雪

向といえるのかもしれない。斜陽産業とはいえず、生産コストさえ下げればなりになりたつ養蚕も、雅蚕飼育所を中心に精進していただきたいものです。たばこの栽培も年々着実な成果があげられ、コンニャクも脚光をあびてきました。養豚・養鶏・養魚などの副業も、つねに研究を重ねて永続するところに価値があらましよう。

でございます。仙田橋も永久橋にかけかえが予定されていますが、総工費約二千万円、本工事は冬になるかと推察されます。道路の舗装も上野方面に延長するわけですが、市街地の舗装以外は国費改装を請願中でございます。町道のジャリ敷や農道の維持、水落・沖立・三領の堤防工事も地元の協力で

予定どおりにできる見込みでございます。災害も工事費がかさんでご本人はもろんのこと、町もお金で苦しんでいます。幸い国でもわたしたちの悲壮な願いをきき入れてくれました。国費災害復旧は特別扱いとして、九割補助が可能になりそうです。

### 長所を伸ばそう

つつしんで新年のお喜びを申しあげたい。何はともあれ新しい年を迎えることができた。おたがいに「めでたい」といわなければならぬ。旧町村の衣を捨ててから、もう第五年度に入ったわけ。このしのが町がどう展開してゆか希望と期待に胸はふくらむ。

暮らしの中にある長所を忘れて喜びを失いがちになってしまふ。その意味で生きることに喜びを自覚させ、新しい息を吹きかき、新しい年を迎えるのは新しい年だ。年頭に於いて、川西人の良さを伸ばすことを強調したい。となり近所がなごやかで心があたたかくつながっている町。ここにはねばり強く素朴な、一万五千の仲間が住む。夫婦相和し家内円満、よく働き義理人情に厚い。信仰心が深く、祖先を尊び、としよりをいたわり、よく助け合う。保守的、伝承的な構えが除々にではあるが改革され、根強い因習を伸ばすことが、ことしの町づくりにつながるからである。

# 施設の充実が先決

## 社会教育の強化も必要

教育長 杉本 春三 郎

明けましておめでとうございませう。昨年中はいろいろとご指導賜りましたことを厚く御礼申しあげます。本年も川西町教育が一段と進展するように、みなさまのご協力をお願い申し上げます。

戦後の混乱から、民主的で文化的な国家建設をめざして立ち上がった学校教育も、時代の進運とわが国の現状にかんがみ、小学校は三十六年度から中学校は三十七年度から教育内容が刷新改善せられ教科書も全部変わることになりました。すなわち教育の目的目標を現実在即して、より効果的に達成するという立場から行なわれたものであり、一言にして申せば、世界の国々から世界の人々から、真に尊敬され信頼されるような実力と品位をもった日本人を育成するということに基づきるのであります。

改善の要点は、児童生徒の基礎学力の充実にあり、道徳教育を徹底し、地理歴史教育を改善し、科学技術教育を向上させ、もって情操の陶冶と健康な心身の育成を図ろうとするものであります。

今後はこの改善の精神にしたがって、教育の効果を向上させるための方途が当然考慮されなければならぬと思ひます。児童生徒の基礎学力を高め、科学技術産業教育を向上するためには、第一に施設整備の整備充実にあり、とくに中学校の分校について検討し、特別教室についてはその建築と施設

とを強化しなければなりません。また、現在十一の冬季分校が開設されていますが、これが運営につきましても、今後無関心ではないと考へておられます。

へき地教育振興法が実施されていることは、教育の機会均等の立場からまことに喜ばしいことであり、まことに喜ばしいことである。へき地である川西町としては、定時制高校の独立校舎建築

### 新しい年、一九六〇年。はげしい時がながれに一つのいきりがつきました。ことはあらゆる面で大きな転換にスタートするの感がふかいたのであります。

### 経済界ではこしを、黄金の年であり月給二倍、所得倍増へ方向づける年だとハデな前景を示してあります。このような宣伝景気に心をうかせることは禁物であり、農業者、農産関係においても、こしは「食糧増産」の旗印を、他産業並の「所得」に転換する年だといわれておられます。

### なるほど、今までの食糧増産の旗印は農業技術を革新して、豊作と平年作を区別つかないところまで進歩させることができた。この結果、あと数年して食糧は自給できるといふ、明るい見とおしができたわけでありませう。

反面、豊作を連続ヒットしながらも農家生活の景気はいつもマスコミの宣伝だけに終わって、農業所得と他産業所得の格差はますますひろらいていく現状であります。

「平和と豊か」が旗印の川西町が、合併後、各分野で着実に成果をあげていることはいへんうれしいことです。昨年は、米作り技術でもついに県一(個人、高橋喜久男氏、グループ、小林正治氏・小林正人氏・小林元一氏)となりました。しかし、この増産技術だけでは必ずしも経営が楽になるとはかぎりませぬ。

そこで一九六〇年を機に川西町の産業は米だけでなく、あらゆるものを「作る技術」から、さらに「売る技術」に前進させて、所得をうんと飛躍させたいものです。米についてはすでに昭和の初期

を実現し、定時制教育の充実を図るとともに、中学校舎利用によるお互いの不便を解決せねばならぬと考へておられます。

学校教育とやらんで社会教育がいよいよ強化され、社会教育法施行十周年にあたる昨年、法の一部が改正されました。この結果、今後一、二年中に、社会教育主事を市町村に必ず設置せねばならないことになったのであります。

川西町教育が大きく発展するため、よりいっそうのご協力あらんことを、年頭にあたって切にお願ひするしだいでありませう。

### 都会娘もあこがれる町に

### 高橋源治郎

「千手モチ」の銘柄で東京市場の人気を博した実績があります。川西町の立地性と町民性の中には、確かに県一、日本一の町づくりの要素をたくさんもっています。地球人が、お月様へ集団移動するという宇宙時代です。これらの化学技術でこの要素を掘り出し、これをはぐくんではゆけば必ず日本一の、住みよい川西町が出現すると信じておられます。

最近、農家の娘さんが農家にとつぐのをいやがる。とよきかさかれますが、農村にとってこれほど悲しい現実はないと思ひます。

モンペ姿の東京娘が山王原で耕転機を運転し、赤いマフラーの大阪娘がお姿を飾り、五穀豊稔を手籠音に祈願する農村風景も、やがては訪れてくることでしょう。

現在の都市への反抗の言ではありませんが、東京娘も大阪娘もみんなあこがれて嫁に来たがるような、住みよい町を建設しようではありませんか。

(川西地区農業改良普及所長)

### 選管だより

◎基本選挙人名簿(昨年九月十五日現在で調製)が、次のとおり確定(十二月二十日)しました。この一カ年間の効力を有します。

川西町選挙管理委員会  
総数(有権者数) 八四三一人  
総数の 1-50の数 一六九人  
総数の 1-3の数二八一一人

◎十二月一日現在で調製された農業委員会委員選挙人名簿は、一月二十日から十五日間縦覧されます。

### 災害通信

七月耕地災害(農林保主官)の現地調査が終了しました。町費補助金(一五五万)の割り当ては近日中に決定しますが、次の順序で採択する方針です。

①三十四年十二月末日までに復旧工事が完了したもの。②三十三年の被災地区で、復旧工事後完了した(三十四年)被災した地区。③農業用施設(ため池、頭首工、水路、農道) ④農地

### ふるさと

新しい年の課題としては人それぞれに希望を抱負があることと思ひますが、われわれがその成果に最も大きい期待と関心を寄せられているものに「無雪道路」の計画がある。△「冬でもバスに乗れる」「雪の中でもトラックが利用できる」。これらがどんなにすばらしい意味を持つことではあるかということ、豪雪地に育った者でなければ理解できないことだ。交通機関の発達によって夏場の交通が便利になればなるほど、冬期交通のマヒ状態がやりに切れない苦痛の種となる。△しかも自然現象である降雪そのものは、たとえば、ペーリング海峡にダムを築いて海流条件を変えたりというような夢でも実現しない限り今の科学の力ではどうすることもできない。宿命だとあきらめて自分たちの町に、無雪道路ができるというところは、まさに遠い国で成功した月ロケット以上の意義があるといつても過言ではない。△といつても、初年度のことにはテストケースとして、やれるだけやってみようというものであろうから、地域も限られておられるし、どんなに大雪でも車道の交通を確保するというわけにはいかないというもろろんははじめから十分の成果を望むことはむづかしい。豪雪といつてもケタはずれの当地に、無雪道路の計画が現実のものとなつたというだけで、将来に無限の希望を持たせるに十分だ。△人類が月や火星に到達する夢も捨てがたいがその前にせめて川西町に完全無雪道路の夢を実現したい。(M)



酒断行  
“おれが買いにきても 売ったら承知しねえぞ”  
一年頭の決意  
日

# 使われた一億五千万円

## 三十三年度の決算はこうだ

昭和三十三年度一般、特別両会計の総額、歳入一億五千八百四十六万四千五百五十七円、歳出一億五千八百六十八万八千六百八十九円に概算のとおり、第七回町議会定例会(十二月五日)で決算の認定が行なわれた。一世帯当たり計算すると、歳入五万七千三百三十二円、歳出五万四千八百四十一円、それぞれの使命をおびて合併第三年度の町づくりをそがれたわけである。ここにそのあらましをお伝えして、みなさんのご判断を仰ぐことにしたい。

## 決算のあらまし

一般、特別両会計とも、まずは平穩無事な決算であったといえる。決算総額のうち、学校建築などで一般会計から特別会計に繰り出した金が一千二千三万七千五百円あり、これらの重複した額を差し引くと、実質的には一億四千万円の決算額であったわけだ。

一般会計は六百万に近い残金で収支をつけたことにはなったが、これは相当額の支払い繰り延べがあったからである。

予算額と比較してどれくらいヒラキがあったのか、その主なものについて申しあげてみたい。

歳入面では、町民税が四十二万五千円、固定資産税が十五万八千円、電気ガス税が十五万五千円とそれぞれ決算増を示し、証明手数料(代書その他)も十三万六千円増加している。これとは逆に、国庫支出金の受け入れは五十六万五千円の減となったが、これは災害復旧費の国庫負担分がなかったことと、保育園の補助金が予算より少

なかつたこと、などが理由である。歳出の面では土木費の二百一十円減が最も大きく、これは道路の改良工事費で支出減となった。諸支出金は百八十四万二千円の減だが、国保や他会計への繰り出しが少なかったからである。産業経済費の八十一万三千円減は、農林業振興費をはじめ各項目の予算残額を累計したもの。財産費の八十万円減は基本財産造成費であった。国保特別会計の歳入面で、国庫補助金が百四十一万八千円の増で

部	歳入	歳出	%
1 町民税	65,448,540	66,208,001	38.1
2 地方交付税	17,154,000	17,154,000	17.8
3 公立学校等	1,048,950	1,048,721	1.0
4 国庫補助金	290,720	426,260	0.4
5 国庫支出金	3,357,248	2,792,671	2.9
6 電気ガス税	1,888,602	1,905,701	2.0
7 証明手数料	2,798,520	2,712,344	2.8
8 雑収入	4,344,157	4,344,157	4.6
9 雑収入	440,000	512,578	0.5
10 国庫補助金	119,720	143,195	0.1
合計	96,890,457	97,245,628	

科	歳入	歳出	%
1 歳入	1,290,260	1,261,267	1.4
2 歳出	19,698,478	19,696,378	21.6
3 消防費	5,142,250	5,132,172	5.6
4 土木費	9,338,959	7,328,874	8.0
5 教育費	16,355,415	16,350,321	17.9
6 社会教育費	8,085,051	8,013,481	8.8
7 保健衛生費	2,203,770	2,194,975	2.4
8 産業経済費	10,268,930	9,453,820	10.4
9 財産費	1,786,420	985,420	1.1
10 統計調査費	246,830	225,545	0.2
11 道庁費	365,000	349,934	0.4
12 公債費	3,197,918	3,197,918	3.5
13 雑支出金	18,900,420	17,058,298	18.7
14 千円費	11,756	11,756	
合計	96,890,457	91,267,403	

あつたが、これは療養給付費補助金等が増額交付されたものである。学校建築、新農山漁村、産業育成資金の三特別会計は、確実な歳入源を確保した町事業であったため、いずれも収支差引きなきしの決算に終わった。

一般、特別両会計の決算額(表は一般会計)は次のとおり。

## 一般会計

歳入 九七、二四五、六二八円  
歳出 九一、二六七、四〇三円  
差引残高 五、九七八、二二五円

新農山漁村  
歳入歳出 三、七二九、三三六円

産業育成資金  
歳入歳出 一、五二二、二二二円

学校建築  
歳入歳出 二〇、二六一、四八〇円

- ◎上野小学校改築費 歳出の内わけ 一一、五二六、五五五円
- ◎白倉小学校新築費 六、二二六、二二九円
- ◎橋小学校建築費

## 国民健康保険

二、五一八、八二六円

歳入 二〇、二六七、六五五円  
歳出 一九、四四五、四五九円  
差引残高 八二二、一九六円

主な歳入  
保険料 九、七五五、七四七円  
国庫補助金 七、二一一、四五五円  
繰越金 一、七七七、八〇四円  
繰入金 一、四七二、六五三円

主な歳出  
役場費 一、六七八、三四九円  
保険給付 一三、三八二、三三三円  
繰入金 二、四七二、六五三円  
保健施設 一、〇五六、九二二円  
諸支出金 七九七、〇五三円

千手診療所  
歳入 八、三七七、九三七円  
歳出 八、三二五、八七七円  
差引残高 五二、〇六〇円

橋診療所  
歳入 七、〇七〇、三〇九円  
歳出 七、〇三八、九一九円  
差引残高 三二、三九〇円

## 戸籍の窓から

- 12月分
- うぶ声 御すこやかに
- 若山 芳子 新町 孝吉 一女
  - 星名 伸行 星名新田 力雄 三男
  - 齋木 清美 室島 保 一女
  - 南雲 弘 中仙田 昇 長男
  - 中村 清志 岩瀬 實松 長男
  - 佐藤 節子 藤沢 清隆 三女
  - 小川 美雪 岩瀬 益栄 二女
  - 小林 英一 中屋敷
  - 高橋サチ子 坪山から
  - 柄澤 寅由 沖立
  - 松本 サト 沖立から
  - 西方 毅 中島町
  - 阿部 春見 宮城県から
  - 羽鳥 昭一 中央町
  - 飯塚 シズ 十日町から
  - 高橋 英一 伊友
  - 児玉 タミ 稲葉から
  - 星野 東助 永久公舎
  - 桑原富美代 十日町から
  - 小野塚 深 山野田
  - 蔵品 ミツ 稲葉から
  - 数藤 進 沖立
  - 井澤江津子 四日町から
  - 数藤 勲 沖立
  - 徳永 和 山本から
  - 星名佐一郎 高原田
  - 中島 光 稲葉から
  - 野澤 幸作 野口
  - 児玉 キン 稲葉から
  - 押木 秀治 発電所通
  - 山田 弘一 仁田
  - 高橋 浄子 伊友から
  - 丸山 泰治 原田
  - 櫻井 康子 長岡市から
  - 丸山 勇 四十歩
  - 丸山 アツ 下原から
  - 上村 春夫 上野
  - 鈴木テイル 加茂市から
  - 羽鳥 義仁 野口 勇作 一男
  - 滋野 政徳 野口 義雄 一男

## たかきこ 御円満に

- 新婦 小林 英一 中屋敷
- 新婦 高橋サチ子 坪山から
- 新婦 柄澤 寅由 沖立
- 新婦 松本 サト 沖立から
- 新婦 西方 毅 中島町
- 新婦 阿部 春見 宮城県から
- 新婦 羽鳥 昭一 中央町
- 新婦 飯塚 シズ 十日町から
- 新婦 高橋 英一 伊友
- 新婦 児玉 タミ 稲葉から
- 新婦 星野 東助 永久公舎
- 新婦 桑原富美代 十日町から
- 新婦 小野塚 深 山野田
- 新婦 蔵品 ミツ 稲葉から
- 新婦 数藤 進 沖立
- 新婦 井澤江津子 四日町から
- 新婦 数藤 勲 沖立
- 新婦 徳永 和 山本から
- 新婦 星名佐一郎 高原田
- 新婦 中島 光 稲葉から
- 新婦 野澤 幸作 野口
- 新婦 児玉 キン 稲葉から
- 新婦 押木 秀治 発電所通
- 新婦 山田 弘一 仁田
- 新婦 高橋 浄子 伊友から
- 新婦 丸山 泰治 原田
- 新婦 櫻井 康子 長岡市から
- 新婦 丸山 勇 四十歩
- 新婦 丸山 アツ 下原から
- 新婦 上村 春夫 上野
- 新婦 鈴木テイル 加茂市から

## 昇天 御いづを祈る

- 新婦 馬場 光雄 元町
- 新婦 松本 栄子 荒川町から
- 新婦 松澤 良平 上野
- 新婦 佐藤 和子 長野県から
- 新婦 小海 益男 小根岸
- 新婦 清水 セツ 下平新田
- 新婦 小海 正雄 小根岸
- 新婦 小海 トク 小根岸から
- 新婦 丸山 信夫 新町
- 新婦 水落 久子 仁田から
- 新婦 上村 英治 上野
- 新婦 田口 アサ 木落から
- 新婦 太田 一雄 田中
- 新婦 山田 公子 仁田から
- 新婦 茂野 作一 室島
- 新婦 佐藤 ヨリ 松代町から
- 新婦 齋木 良之 高倉
- 新婦 福島 夏子 小国町から
- 新婦 樋口 ノリ 小千谷から
- 新婦 若山 一子 新町から
- 新婦 登坂 求 岩瀬
- 新婦 高橋トシエ 室島から
- 塩原 平八 中島町
- 半藤 仙助 学校町
- 黒島 ギン 伊友
- 平野 トモ 四郎兼
- 丸山幸之助 四十歩
- 佐藤 ソヨ 仁田
- 和久井佐之吉 木落
- 田口 サト 木落
- 中島 茂正 田代
- 川崎 廣光 室島
- 南雲 保治 中仙田
- 小林 ミヨ 中仙田
- 茂野美佐子 室島
- 岡島 ヨシ 大白倉
- 登坂 ツ子 赤谷

# 新春におくる話題 百まで生かると初笑い

## 須藤トノさん「橋」訪問記

下原のカミのオババはことし満九十二才、川西町の最年長者だ。気もたしか、視力もハツキリして耳もよくきこえる。歯は十年も先に欠けたがハグキがけつこう役に立って、ツケ菜のクキでもコリコリと食べる。健康診断のほかまた一度も医者にかかったことがないほど達者な人で、たずねた筆者も「この人が」と、とまどうくらいに若かった。以下、須藤トノさんの訪問記である。

トノさんは慶応三年六月二十日父亀吉、母ヤトさんの末っ子として、仁田村の源左右門（現在の家）家にお声をあげた。

だから、れっきとした幕府の治世下に生まれたわけ。国内騒然として、徳川三百年の夢がやぶれんとする四月前のことである。

十九の春、一つ屋根に住む蔵吉さんと夫婦になったが妻がなくなり蔵吉さんより十八才下の弟文平さんを養子にして、稲条から嫁トセさんをむかえた。

文平さん夫婦は六人の子宝に恵まれ、いまでは二男の寛蔵さん（四六才、前橋農協専務）があとをついで、妻ミノさん（四九才、小幡養布さんの妹）との間に四女がある。トノさんが蔵吉さんと死別したのは四十六才のとき、それ以来すつと独身で通してきたが、子どもの文平さんは八年前に死亡、トセさんも去年なくなった。

現在トノさんと、その孫に当たる寛蔵さん夫婦、曾孫（ヒコ）に当たるハルノさん（二十三才）と四女のミヤ子さん（橋中一年の五人暮らしである）ことしはハルノさんにおムコさんが来るという



（写真）須藤トノさん  
撮影：高橋正義

## トノさんの日課

トノさんはいつも朝六時ごろ起きる。もっと早くから目がさめるが寒いから寝ているのだそうだ。家族といっしょの朝飯にははきりもかかしたことがない。うちで神仏をまつるのもトノさんの受け持ち、そのほか巻にも遊びに出

かけるし、ときどき針をもったりするが、いくらかでも「仕事をしている」ということで気持ちが良いらしい。一時間くらいヒルネをするが、コロリと横になるとすぐにおむる。これが日課で、晩の八時ごろにはもう床にはいる。

白髪で血色もよく、どこかに気品のあるオババはとても話好きの人だった。筆者の質問にいろいろ顔をほころばせながら、一言一句を正確に答えてくれたのである。

（オババの話をお話にするため、できるだけ方言のまま掲載させていただきます。）

うぶ声あげしころ  
雷峠の戦争（戊辰戦役）で鉄砲の音がきこえるとき、ちょうどオウチが惣代で、戦争の人足まわしていきが、いざなかに生まれたてがんだが。女親が四十七のときの子で、「シーシクッテすつぶしてしまいましたか。」とよく詰ってくれました。

昔の正月は  
もと（昔）は旧暦で、巻（分家）の衆が集まってシヨツギをのべつから、ゴツツオを食いしに天神はやしでハヤラガシタの。子どもときばセツタクキモンを着て、モクロンジでこしらった羽根つきをして高く上げるだけ。ワラホシをかぶってスイノに乗ったりしてあすんだがんそう。

幼き日の追憶  
男衆はチヨンマゲをいっていたが、いま役者がそのまねして

あれと同じだったの。キツネ、ムシ大、テン、イタチなんかチヨロクラして踊ってるんだっけが、バカサレタこたなかつたの。キツネがヘルマナカ（日中）鶏をツカメテ、口にくえて背中へそって逃げるがも見たの。ものもらしい（サイモン・ゴセ・サト・コムソウ）がよく来るっけが、米をくると行ってしまったし、コチキがポロを着てもらいに来たりしてろくなものなかつたの。長福寺様（ぼだい寺）は、カゴに乗ってあくエライ人でしたぜ。

娘時代はなじよして  
メイゲツには芝居はかしてたんだし、かぐらや屋台もあっておもしろかったの。「積もる雲恋のせきのと」もしたし、チヨンカレもきいたの。馬のものを煮しめに、ヒヨウソクの前でヨナベをしながんそう。オウミ宿のしっくらをして、ひとりか二奴くらいウムらだつて、今の衆はヨレハツ食うと新聞を讀んだりラジオ聞いたり…。シヤバが交わつてみんな昔んなつてしまったの…。

妻なりしころ  
小千谷へ日けりりて買もんに行つてきて、それからヨナベをしたんだとも今はタツケナクなつたて…。男衆はセンバで福ときピーンピーンと一晩に四束ぐらいこくつたの。とりあげばさや名親もしたぜの。オラ達で病氣はしてみねども、人がナンギクなつたり、としよりがモウソウしたりすると、キツネがついたなんてダシナンは、かいてたんだ。

戦後の感慨  
もと（戦前）は秋になると、年貢米が倉にいっぱい入るんだっけが、いまはワカテが作るほかだれももつてきてくねえ、世の中が交わつたがんだの。ラジオもハイカラのことはがいで聞いてもよくわからんども、木落（浦太郎）のことや謡曲、旧劇やもとの民謡なんかおもしろい。オラの若いときはヨイヤサ、シゲサ、三階おしなんかを踊つたんだとも、いまの衆はハヤリの何とかを囃らして手をつつぱたり足をヒヨコンヒヨコンしたり、フワチャワしてちつともおもしろくねえや。

喜びと悲しみ  
いはんらうしかつたがんな戦争で死んだとばっか思つてたとうちん（寛蔵さんのこと）が

雨の降る日（昭和二〇年九月十七日）に、「オラシヨウ」といって千鳥から復員して来たとき、いっせつなかつたときはとちやんと義平（寛蔵さんの弟）が戦争に行つたとき。

ことしの希望は  
家のワカテがめんないしよ、何だかんだで大事にしてくれるんだが、オラいまゴクラクだぜの。だすけ、これよかなんにもいらねえの。まねんな知事様から金（敬老金）をもらつてありがたかつたが、ことしはくれるがんだか、くれないがんだかの…。

長生きするには  
いっちのクソリはカテメシだっけの。好ききらいをいわんで、なんでもよくかんだほうがいいの。あんまり熱いんを食べないこと。塩カゲンの甘いんよりもシヨツパイが体にきくがんだの。天気の良いときはお天とう様にあたることだ。

おばあちゃん  
お元気で  
「長生きして後がこんでも困るが…」と笑いながら、「オラシヨが大事にしてくれるし、オレも達者だすけに百まで生きるぜの」と、玄關先まで見送つてくれたオババは、幕末から明治・大正・昭和へと変わったはげしい時の流れをつねに一貫した強い精神力で生きぬいてきた人のようだ。

このおんななら、まだまだ百才の上を越すだろう。おばあちゃんどうぞお大事に…。

：貸し衣装【千手】ルポ...

すでに三七二万円がうく

喜んだ花嫁さんたち

千手地区に貸し衣装が実現したのは昭和三十年九月のこと...

話し合いが 動機で実現

この起りは昭和二十九年の秋、当時の青年団(保坂国夫団長)と婦人会(田辺キイ会長)が...

一部にはあつた 反対の声

しかし、いっぽうでは「十分に利用されるだろうか」というしんばいがあった...



「オラは自分勝手にするぞ」とふれある人たち、習慣からぬけきれずに白眼視するオヤジ層などが...

利用率は 九五パーセント

ところがさにあらず、いざ貸し出しをはじめるとわれもわれもの盛況ぶり...

新しい衣装を

現在、中央公民館には四組の貸し衣装が保管され、千手地区婦人会(大塚晶子会長)で管理している...

間、カツコ内はオビだけの借料三〇年のもの 五百円(百円) 三二年秋、八百円(二百円) 三四年秋、一千円(三百円) 挙式の改善にも

新生活の動き

いま、花嫁衣装一組(江戸つまオビ、じゅばん、えり、たぐり、はこせて、せんす、オビじめなど)をそろえると、最低三万円はかかる...

もつと農業の記事を

毎日忙しい中を、「かわにし」の発行で苦勞さます。号を重ねるごとに向上してゆくのがわかります...

町の声

きよわんの災害はひどいものでした。そこで「かわにし」にも

保坂公民館主事の話

町当局の理解と、一般の協力があったからこそ実現できたわけです...

庁内めぐり (13)

税務係の巻 その二

水品忠雄氏(三領)は、徴収と納税組合の育成につとめる。未納もつとこれらの記事を載せてください...

者からイヤミをいわれても、いっこう気にしない性格はこの人の良さだぞう...

小川益栄氏(岩瀬)は地籍のペテラン、責任感旺盛で事務処理も完全に近い...

小林 力氏(中仙田)は諸税、軽自動車税の主任、いささかデリケートなエンジニア型の人だ...

国土調査の話：①

目的は役にたつ台帳

高橋英雄

国土調査の必要性

経済的な変動のほけしい世の中、いちばん信頼できる財産は田や畑、それに家屋のような不動産であるといえます。

このたいせつな土地が、自分のものであるという権利を守ってくれるのは、登記所に備えてある土地台帳であり、登記簿であります。もしこの台帳が不備であつたら、いったいどんなことになるでしょう。境界がわからなくなつたとき、更正図がほんとうの境界を示してくれませんか。

自分のものだと思つていた土地に他人が入ってきたようなとき、果たして登記簿が証明してくれるでしょうか。いまのところ、登記所にある更正図や登記簿には残念ながらそれだけの価値がありません。現在登記所にあるものは、明治初年に税金を取るために検地をしたときのものです。精巧な機械もなく、技術もへたなときに行つたもので、すから正確であるはずがありません。一例をあげますと、台帳集計面積が百五十町歩となつているのに、実際は四千町歩もあるというように所々あります。こうした最もたいせつで最も利用度の高い台帳や更正図を、何とかして、いま社会が要求している高い精度のものに作りなおしたいというのが、昭和二十六年に国土調査法が制定されました。

国土調査法というのは、土地にも人間と同じようにしっかりと戸籍をつくり、地図も土地の地球上の位置を幾何学的に、正しく表わすということが目的です。近代的方法で、高い精度で地籍を明確化し、あわせていろいろな土地改良計画や、土木事業に貢献したいということで制定されたものであります。

一筆地調査

新潟県では昨年からの仕事に着手し、川西町でもとから調査をはじめることになりました。みなさんもすでにご承知のことですが、町内のごまごま

にヤグラを立て、その上に白い板を打ちつけたものがあるはずですが、これは基準点といって、その下にある大理石の標柱がこんどの国土調査に使われるたいせつな基準になります。このヤグラののぼったり、牛をつないだり、下の石を抜いたりなどしないでください。もしこのようなことをすると罰せられることがあります。

川西町で行なう国土調査は地籍調査とよばれております。この調査の作業工程は、図根測量、一筆地調査、一筆測量、面積測定、地籍図および地籍簿の作成などにわかれております。近代的方法で仕事管理されているため、むすかしいようですが、町内のごまごま

ある女教師の手紙

「先生ころっしやい」一入ってもいい？一腰をかかめて入れてもらいました。小さいあかりが、みんなのえがをお見せしてくれます。雪の壁のくぼみ、その小さなななころっしやい、そのあかりの外から見たとき、ほうとあかるか

くはつらふ笑っていました。カイは心の冷たい女王のとりこになりましたが、ゲルダの愛の力で雪のお城から帰ることができたという、アンデルセン童話をこ

て賢治の「雪渡り」をかたりました。きしり満員といつてもお客は五人です。きらきら光つたのは銀の壁と十二のひとみ、とてもい

ななころっしやい、そのあかりの外から見たとき、ほうとあかるか

は、自然の中にくめくめいたかれで育つようです。カイやゲルダの激しき強さを持ってないのかもしれない。でも、この雪のお城の美

へき地教師の楽しみは乏しいけれど、こういう子どもたちが相手です。夢多く働いていきたいものです。教師にとってはいい。そう

書いて渡します。それを棒切れにはさんで、該当の地番ごとに見やすいように立ててください。あとで役場の係が調査にまわります。更正図の写と土地台帳の写によって、所有者や地番、地目や筆界の調査をして、現況と台帳が違つている場合には台帳を現況どおりになおすわけです。みなさんからも立ちあつていただきます。そして、合筆してほしいものや分筆してほしいものがありましたらみなさんのご意見にしたがって修正してゆきます。

かわにし俳壇

金山柏樹選

- 柏崎 玉水
野口 恵風
野口 寅夫
野口 寅夫
○牛売つてしめ縄のみの賑かな
織り初めのこだましてわりの山の家
岩瀬 桂子
祝言をこの口ときめん初暦
越ヶ沢 辰治
生涯を自姓として鍛始め
岩瀬 米風
銀嶺に初日をあびて鳥の舞う
岩瀬 湖月
ごさ敷いてかるたの場所と定めけり
岩瀬 喜美子
ちらつける粉雪もてげん初かが

赤谷 仙子
何かにと行事をわたり初湯かな
茅野市 風来坊
寒天の干しある庭に冬すすめ
元町 鉄平
雪晴れに松風の位置の定まらず
小白倉 緑風
赤々と炬火燃えており外は雪
○印を入選句といいたします。今月はいつちもより多くの投句があり力作が見られました。玉水氏の句すこし繩なれをして仕事始めをしたところよし。恵風氏の初日記は長わすらいがなつたつれしさを感懐があるた句、寅夫氏の牛売つては、そのさびしさが既のすみから感ぜられるもの。作句はせつ頭にかん転すべしとか、よく吟味してから投句されたい。(柏樹)

編集後記

○ついで新年のおよそごびを申しあげ、ここに第十五号をおとどけしました。
◎教育文化と産業に重点を、という中村町長のことばは、そのまま町の建設につながっています。
◎もりのあがる世論こそ、これらを解決するカギであるといえます。
◎ついにきた冬將軍...でも、あたたかい家庭で春を待つしあわせを忘れないでください。
◎町外在住のみならず、ふるさとはいま一面の銀世界です。ふみくも愛着を感じます。は年一二ふえたせいでしうか。とほろろく清くさやけき山川の変わらすたえす常にもがもな (魚彦)